



「研究教育分科会」



研究教育分科会講評

CAUA運営委員（東京大学大学院）

斎藤 馨

今回の研究教育分科会では、以下の2つの講演発表がありました。

(1) 「少人数専任スタッフによる授業支援とシステム管理の現状」

発表者：佐藤健先生（日本体育大学）

日本体育大学では専任スタッフ3名で、システム管理と、1・2年生約三千名の情報リテラシー教育を進めていて、その効率的なシステム管理や情報教育実践ポリシーについての紹介。

(2) 「海外大学との連携プロジェクトにおける諸問題と対策」

発表者：内田奈津子先生（フェリス女学院大学）

フェリス女学院大学で進めているフィリピンにある提携大学とのインターネットを使った共同プロジェクトについて、海外大学との連携におけるネットワークの技術的問題と文化的な留意点についての紹介。

それぞれのご発表について、私なりのコメントを述べさせていただきます。

佐藤先生の発表では、他の4名のスタッフとの共同発表と前置きされているように、大学の情報システム管理の全般を担当できる2名の教官とこれを補助す

る3名の教官により効率的にサポートする体制を苦勞して築きあげ、チームワークの努力によって図書館システムまで含めた管理・サポート・リテラシー教育がなされていることに驚きました。体育大学なので情報システムは専門外との説明でしたが、計算機センターや図書館システムを持つ総合大学では当たり前のようなシステム管理とは異なるユニークな工夫を知ることができました。

内田先生の発表では、副題に「インターネットを利用したテレビ会議システムの活用と現状」とあるように、海外共同研究の相手先とのテレビ会議システムを使っでの連携についての具体的な内容でした。相手先がフィリピンなので、インターネットインフラも不安定でしかも設備も無い状態のなか、内田先生が自ら会議システムを担いで相手先まで出かけて、会議や講義を実現させてゆくプロセスには、つくづくネットワークはやはり両端に人がいてコミュニケーションをするための道具であって、そこには縁の下で支える人の情熱を感じました。改めてシステムを活用するための努力は、開発以上に重要なことを教えて頂きました。

お二方とも貴重なシステム管理・活用の現場の紹介を有り難うございました。